

宮崎大学 川村助教を座長とし、「西南暖地の畜産経営の現状と国際競争に打ち勝つための自給飼料の役割—求めるものは何か」について、第1回西南暖地の自給飼料を考える会の座談会が持たれ、本稿はそのおり収録した内容を取りまとめたものです。ご出席、ご発言いただきました方々に厚くお礼申し上げます。なお、本文中の敬称は略させていただきます。

「牧草と園芸」編集室

〈座談会〉

西南暖地の自給飼料を考える会 (第1回)

出席者	座長	川村	喜一	修一	
		福山	長	園	宮崎大学農学部 草地畜産学講座 助教授
		名和	三	圀	宮崎大学 付属農場 教官
		横山	千	男	宮崎県主任専門技術員
		濱田	盛	遠	宮崎県主任専門技術員
		渡辺	誠	吾	鹿児島県主任専門技術員
		蔵園	良	輝	J A 小林(宮崎県) 考査役
		山下	太	郎	J A 鹿屋(鹿児島県) 本部長
		山井	清	人	雪印種苗(株)
		近藤	尚	次	〃
		細田	尚	次	〃
		野崎	國	彦	〃

川村 (座長あいさつ)

今、日本農業が国際競争に打ち勝てるのかと考えた場合、現状から判断すると、農業に対しての国民の支持、合意も必要であり、労働力、後継者問題、高齢化問題などなかなか苦しい部分もあり、ひと言で勝てるとは言い難いのも事実かも知れません。その中で、今回のテーマの自給飼料の役割を討議するにはあまりにも大き過ぎますので、まず、各地域の現状をお話いただき、それをベースに飼料作物の位置づけ、考え方などについてお話いただきたいと思います。

1 各地域の畜産の現状

濱田

鹿児島県畜産農家の現状を見ますと、酪農・畜産戸数の減少、高齢化の問題、後継者の問題、ふん尿処理などの環境問題が挙げられます。後継者問題の対策としては、庁内に担い手育成係を設置し、初めて就農する人への技術、情報サービスをし、新規就農を推進しております。高齢化に向け

て、民間、J Aで販売している混合飼料の人氣が高く、庭先まで配達され、多頭化が可能と好評のようです。

横山

宮崎県でも酪農・畜産戸数の減少、高齢化、後継者の問題が挙げられます。また、肉牛繁殖農家には混合飼料の給与を進めており、この混合飼料を組み合わせて3点セットで儲かる経営として進めています。3点セットの1つは混合飼料の給与で、混合飼料とはヘイクューブ、コーンコブ、濃厚飼料を混ぜているものですが、将来は飼料生産者が飼料作物を生産し、この混合飼料に混ぜて地場で作り、地場で配布するという考え方です。

2つ目は省力環境衛生対策としての直下型換気扇の利用です。直下型換気扇を利用することにより、ふん出しが年に2回くらいで済み、労力の軽減になり、床が乾燥するので牛の生理にもよく、肥育牛の肉質その他にもよく、採食性もよくなります。

3つ目は除角して群飼いをするという事です。

また、プラスアルファで早期離乳の技術ができれば更によいと考えます。

蔵園

近年、張芝養成地の飼料作地転換が多くなってきております。また、飼料作物生産性が低く、頭を痛めております。

2 飼料作物の方向と位置づけ

川村

私は畜産の方向として、より楽に実現できる体系、飼料作物はより高収量を実現できる体系が必要と考えます。また、飼料作物の位置づけをあえて考えるなら繊維づくりにあると思います。

各地域の現状についてお聞かせ願いたいと思います。飼料作物と畜産経営の方向を一諸に考えていただいても結構です。

横山

私はデンプンの確保も重要と思います。将来的には農家は大型農家、小型農家の2極化が進み、省力化、ゆとりを持った経営を目指そうと努力すると思います。

蔵園

私どもの地域では、年3作体系が定着しています。トウモロコシ→夏播きえん麦 ハヤテ→イタリアンライグラスが中心になる作付け体系です。また、ロールベール用としてヘイスーダンが多くなってきています。

渡辺

トウモロコシが一番作付しやすい。最近、トウモロコシとソルゴーの混播も多く、1回の播種作業で作物が2回収穫できるメリットは大きい。

名和

私は方向として、省力作物の導入あるいは組織を見直した生産が必要と思います。また、自給飼料を考える場合、TDNで購入飼料と比較してはコストに無理があり、繊維での比較でペイすると考えます。

渡辺

楽な飼料作物を実現できる体系を考える場合、コンplanターの播種板と種子のサイズの問題などもあり、今後、種苗メーカーと農機具メーカーとの協調が必要です。

3 粗飼料の質と量について

川村

次に、自給飼料の質と量についてご意見をいただきたいと思います。私どもの立場から言えば、質というのは繊維かデンプンかたんぱくかということになると思います。そういった意味からすれば、トウモロコシはデンプンに偏っています。ソルゴーは繊維が主体でたんぱくもあり、両方に共通してミネラルの問題もあります。量と質との兼ね合いでご意見をいただきたいと思います。

蔵園

鹿屋の今の形態は主にトウモロコシ、ソルゴーで、青刈り・乾草用としてグリーンパニック、ローズグラスが栽培されています。私どもの地域は和牛が中心ですので、量が先に求められ、次に質の良いものとなりますか。年3作体系でえん麦ハヤテを播種、イタリアンライグラスを播種して、トウモロコシを播種するという形です。

川村

酪農でも和牛でも、繊維といっても刈遅れの繊維ではなく、良質の繊維ということになるでしょうね。

4 畜産後継者問題

川村

今、深刻な問題である後継者問題について皆様のご意見を伺いたいと思います。この問題を考えるに当たり、どのような形で酪農・畜産の良いイメージ作りができるかと思っています。

福山

自給飼料の役割を考える時、畜産農家の高齢化の問題、後継者の問題は切り離せない。飼料作物の自給は理想だが、労力の点で気になる。今後、牛を飼う人、草を作る人と仕事の分業化が必要ではないかと思っています。

名和

受委託システム（分業）が作業の集中化を避けるためにも必要です。また、播種期幅、刈取り適期幅の長い品種も労力の分散につながると思います。

横山

農家が儲かること、これが一番の対策と思います。今の農家の気持ちというものは、社員の現在言われている労働時間の短縮の問題の影響が大きく、労働生産性が低いのが問題。肉牛繁殖の場合、土地を集約、集積して面積が大きくなれば作業体系のコストが下がり、福山先生の言った牛を飼う人、餌を作る人の分業化になり、産地化が定着し、後継者の問題が改善されるのではないかと。酪農家がこれから生き残る道として、質的規模拡大と量的規模拡大があります。質的規模拡大には高泌乳があり、良質の自給飼料が必要となり、量的規模拡大には労力があるので、フリーストール、パーラー、コンプリートフィードなどが入ってきております。しかし、このような農家も土地さえあればトウモロコシとソルゴーとの混播、3作体系はできるという気持ちはあるはずです。

濱田

安定した畜産経営（安定した収入）ができるマニュアルの作成を現在行なっています。後継者問題を議論する場合、作業の省力化は必ず考えなくてはならない事項です。儲かる畜産・農業と自給飼料の結び付きは、今後、労力の問題がついてきますので、省力化のできる作付け体系、収量の上がる品種開発が必要。特に夏型牧草でイタリアンライグラスに匹敵する品種に関心があります。

5 畜産の環境問題

川村

環境問題として、先程濱田専技よりふん尿処理についてお話がありましたが、宮崎県はいかがですか。

横山

宮崎でも、この問題は避けて通れない問題です。最近、三股町にふん尿処理施設を作る予定もあるようです。地域内循環で解決できればよいのです。

山下

副産物である堆肥を農協さんが窓口となって、耕種農家、畑作農家へ販売できるシステムができないものでしょうか。

濱田

私どもでは特に尿が問題で、対策として一時溜めて熟成した後、お茶や他作物へ施すなど実際の使用方法でのマニュアル作りを始めています。

おわりに

川村

最後に、私はサイレージ発酵について考え方に誤解があるのではないかと考えております。私は学生にサイレージ発酵は必要悪だと言っております。つまり、貯蔵しなければならぬから仕方なくサイレージ発酵利用をしているのであって、生のままで給与するならばそれはそれでいいんだ。ただ、生のまま給与すると品質も変わるし腐る。では、冷凍すればよいのではと考えるとコストがかかり過ぎる。乾草も雨を気にしなければならぬ。それらを考えてしょうがないのでサイレージにするのだから必要悪だと言っています。適度に乳酸があれば問題ないのですが、極端に乳酸が多いと採食性が落ちてきます。もちろん、そういう条件の場合は高水分ですから当然ながら排汁がでてきます。一般には発酵が進むほど養分のポテンシャルが低下し、損失が大きくなると思います。総合的に考えて、サイレージ調製というのは発酵をできるだけ抑えるやり方—必要最低限の発酵—それは材料草が持っている養分を最大限保持するやり方になっていくべきだと思います。今のところギ酸の添加、予乾などがありますが、今後は排汁の公害問題も考えねばならない。この件に関しましては、ご意見がありましたら後日伺いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

今回、いろいろとご意見を出していただき誠にありがとうございました。自給飼料の役割は牛飼いの原点であることを確認し終わりたいと思います。

●「西南暖地の自給飼料を考える会」は雪印種苗(株)南九州営業所が事務局となり、学識経験者から、力強く頑張ろうとする農家さんまで自由に討論できる場として発足しています。

今回は力強く頑張ろうとする農家さんを中心に討論いただければと計画中です。参加ご希望の方は弊社南九州営業所・宮崎試験農場へお問い合わせください。